



## 株主様向けアンケート—株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせていただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。  
下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>



- 携帯電話からもアクセスできます／QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。
- 空メールによりURL自動返信/kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください(タイトル、本文は無記入)。アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。
- アンケート実施期間は、本事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2006年8月31日まで)です。
- ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。  
●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com

# HEIWA BUSINESS REPORT 2006

## 第38期 事業報告書

平成17年4月1日～平成18年3月31日



財務ハイライト(連結)	2
トップインタビュー	3
セグメント別の概況と来期の見通し	7
HEIWAトピックス	10
連結・単独財務諸表	11
会社概要・関連会社のご紹介	13
株式の状況・株主メモ	14

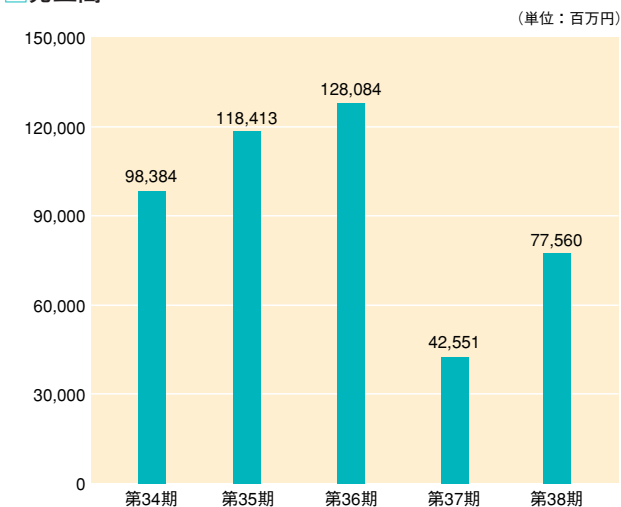
## 永遠の原点

最新のエレクトロニクス技術を駆使して  
今やレジャー産業の雄に成長したパチンコ産業。  
平和は常にその先頭を走ってきました。  
戦後の暗闇の中で、人間にとって最も尊く大切なことは  
「平和」であると痛感した瞬間から、  
私たちの道は始まりました。  
パチンコ産業は「平和」の象徴でありたい、  
その熱い想いが社名になりました。  
時代が変わり、時が移っても、  
その創業の精神は脈々と受け継がれ  
一人ひとりの心に息づいています。  
平和こそ、私たちの原点。

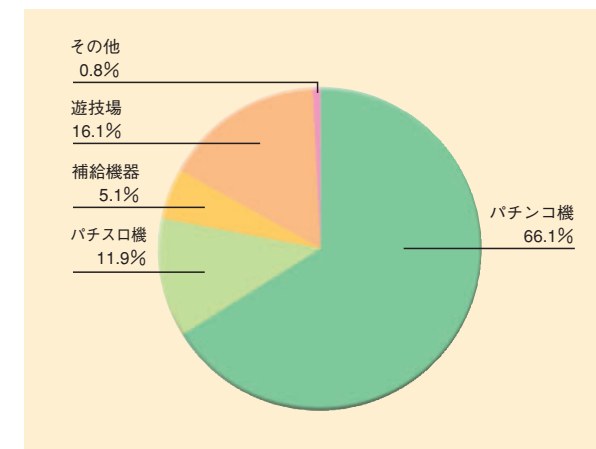
## 財務ハイライト(連結)

Financial Highlights

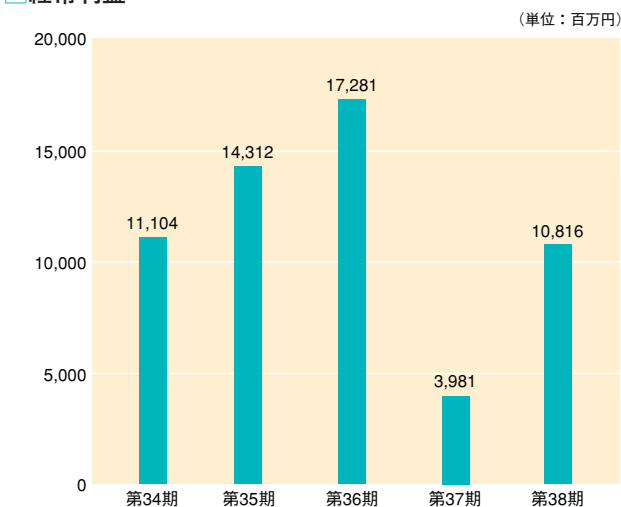
売上高



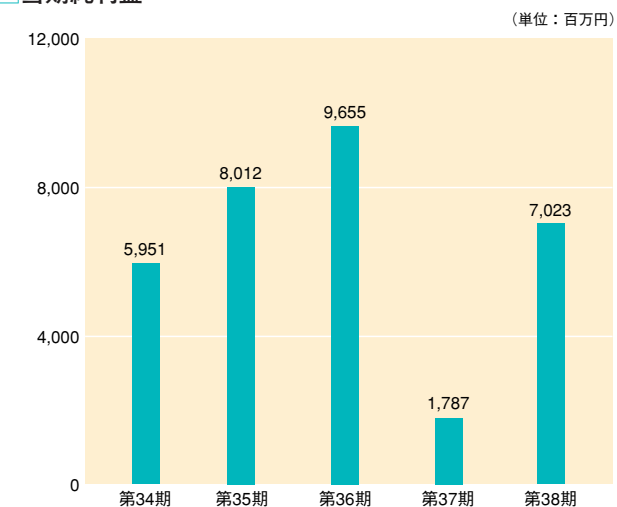
セグメント別売上高構成比



経常利益



当期純利益



※ 決算期日を12月31日から3月31日に変更したため、第37期は2005年1月1日から2005年3月31日までの3ヵ月間となります。

## 「具体的なテーマ設定に基づく商品戦略・販売体制の強化に取り組み、企業価値を高めてまいります」

**Q** 社長就任にあたっての  
お考えをお聞かせください。

**A** 株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、代表取締役社長に就任いたしました石橋保彦でございます。

私は1966年4月の当社入社から40年、主に営業畑でキャリアを積んでまいりました。現在この立場で感じるのは、業界および当社が置かれた厳しい状況に対する重責です。

パチンコ・パチスロ業界はライトユーザーの減少が進み、ヘビーユーザーを中心とした市場環境が、問題となっております。パチンコ・パチスロを「身近で手軽な大衆娯楽」とするため、業界の内外で様々な取り組みがはじまっていますが、私としてもそうした取り組みを積極的に推進してまいります。

また、2004年7月の遊技機規則改正以降、パチンコ・パチスロ業界を取り巻く環境は激変しております。こうした環境変化に対応するため、当社では2006年4月に組織変更を行いました。この新しい組織体制のもと、グループの総力を結集し、時代に見合った製品を市場に提供することにより、アミューズメント産業の発展に寄与してまいります。

それでは、当社グループの当期(2005年4月～2006年3月)の業績、来期(2006年4月～2007年3月)の見通しなどについて、この場をお借りしてご説明させていただきます。



代表取締役社長

石橋保彦

図1 パチンコ機市場の動向

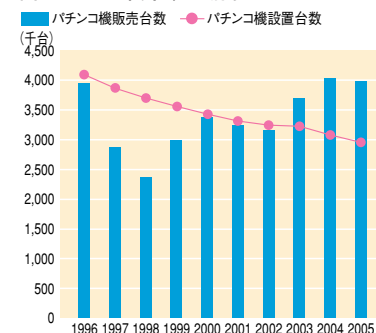
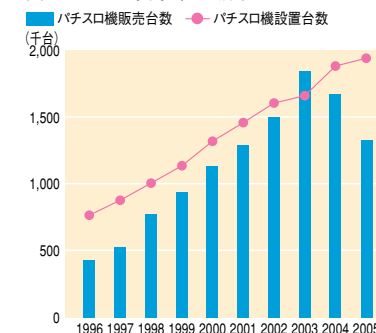


図2 パチスロ機市場の動向



**Q** 当期の事業環境について  
お聞かせください。

**A** 当期におけるパチンコ・パチスロ業界は、貸玉料(28～30兆円)・ユーザー数(1,600～1,800万人)とも昨年とほぼ同じレベルであると推測され、引き続き、ヘビーユーザー偏重型の環境であったと考えられます。

ライトユーザーが少なく一部のヘビーユーザーに売上の多くを頼っている現在の状況は、「大衆娯楽」として危機的状況であると、私は考えております。こうした認識は業界全体に広がっており、「遊技産業健全化推進機構」など、業界内外において様々な取り組みがはじまっている状況です。

また、当社グループの直接の顧客であるパチンコホールの状況ですが、競争の激化により経営状況の二極化が進んでおり、チェーン店による大型店の出店が続く一方、小規模店舗の廃業が続いております。

さらに、当社の主力事業であるパチンコ機・パチスロ機市場についても、従来とは大きく状況が変化しております。しかも、パチンコ機市場とパチスロ機市場では、市場環境が大きく異なります。

まず、パチンコ機市場は、設置台数が昨年に比べ4%減の

296万台と、ここ10年減少傾向にあります。その一方で販売台数は400万台弱と比較的堅調であったと考えられます。

これは、ヘビーユーザー偏重型の市場に対応するため、パチンコホールが新台入替による集客をはかる営業スタイルを加速したことが主な原因です。短期的には有効な営業スタイルですが、中長期的にはユーザーを減らす一因にならないか心配しております。

一方、パチスロ機市場においては、設置台数は3%増の193万台とここ10年成長が続きましたが、販売台数は大幅な減少となりました。

これは、遊技機規則改正に伴う特殊要因です。遊技機規則の改正によりパチスロ機の規則が大幅に変更され、市場には改正前の旧規則に基づく旧規則機と新規則機が混在しています。現状では、当社も含めどのメーカーも市場で評価される新規則機を開発できておらず、ユーザーの人气が旧規則機に集中している状況です。そのため、パチンコホールはできるだけ設置済みの旧規則機を温存する方向で営業しております。

Q 当期の業績について  
お聞かせください。

A 当期の当社グループの業績ですが、売上高は予算を下回る775億円となりましたが、経常利益は108億円、当期純利益は70億円と予算を上回る結果となりました。

売上高が予算を下回ったのは、当社の主力事業のパチンコ機・パチスロ機の販売不振が主な原因となります。

パチンコ機事業は、販売予算265千台のところ販売実績は242千台の結果に終わりました。この不振は、当社製品のパチンコホールにおける評価が厳しかったことが主な原因であり、企画・開発力の強化が当社にとって重要な課題であると認識しております。

また、パチスロ機事業においては、販売予算40千台のところ、販売実績26千台という結果となりました。これは一部の旧規則機に需要が集中し、新規則機の需要が低かったことが主な原因です。

売上高は予算を下回りましたが、利益面においては、金融資産の売却益および為替差益の計上と、試験研究費を中心とした販管費の消化が来期にずれ込んだことにより、予算を上回りました。



Q 来期の事業環境については  
どのようにお考えでしょうか？

A パチンコユーザーの動向ですが、残念ながらヘビーユーザー中心の市場が続く状況だと思われます。しかしながら、業界内外でこの状況を打破しようとする動きが出てきております。先ほどご紹介した業界全体の動きのほか、ライトユーザー向けの「遊べる」機種種の設置比率を高める大手パチンコチェーンの動きも見られます。

射幸性の高い確率が1/400の機械を中心に遊んでいたヘビーユーザーの動向にも変化が見られ、従来より射幸性の低い1/330～1/380程度の機種が売れ筋の中心になると考えています。

さらに、ライトユーザー向けの機種種の需要が一定量できている状況です。当社が発売したスキージャンプ・ベア(7ページ参照)はライトユーザー向けの機種だったのですが、パチンコユーザーからは従来にない反応があり驚いています。

こうした状況は、ヘビーユーザー偏重型の市場が変化する兆しの可能性もあり、今後注目していく必要を感じております。

来期のパチンコホールにおける最大の課題は、パチスロ機の大量入替です。規則改正に伴い、現在設置済みパチスロ機の大部分は、2007年夏までに順次入れ替える必要があります。特に2006年6～10月の間に設置済みパチスロ機の1/3以上の入替が見込まれます。この入替ですが、まだ設置可能な旧規則機への入替がメインになると現在のところは予測しております。

こうした事業環境から、パチンコ機・パチスロ機市場を考えた場合、パチンコホールは上期においてはパチスロ機の入替に資金をシフトし、下期はパチンコ機の入替を主軸とする可能性が高いと考えております。

Q 来期の業績および配当の見通しと  
株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 当社の来期業績見通しですが、中間期は売上高348億円、経常損失30億円と、株主の皆様にはご心配をおかけする見通しとなってしまいました。

これは、先ほどご説明いたしました、上期のパチンコホールにおけるパチスロ機への資金シフトの結果、当社の主力事業であるパチンコ機の販売が落ち込むとの予測に基づいております。パチスロ機事業につきましては、需要が設置可能な旧規則機に集中するため、新規則機については過度の期待はできない状態にあります。

通期の見通しにつきましては、売上高987～1,107億円、経常利益78～128億円、当期純利益45～74億円と予想しております。

通期の業績に幅を持たせて発表しておりますが、これは2007年3月期末に発売予定の新製品の投入時期が販売戦略上の理由により翌期にずれ込む可能性を考慮してのことです。

次に配当ですが、安定配当の額として、1株当たり年間30円と増配することいたしました。これは、中長期的な業績見通し、資金状況や自己株式の取得状況などを総合的に検討した結果です。また、当社の業績が大きく向上した場合は増配も検討してまいります。

最後に、私どもは、当期の問題点を見据え、ユーザーの動向変化を分析・予測した商品戦略、パチンコホールの経営環境に見合った価格戦略、生産体制の整備による販売支援体制の強化など、具体的なテーマに基づいた整備を早急に行い、株主の皆様のご負託にお応えしてまいり所存です。今後も引き続き変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



## パチンコ機事業

### □概況

2005年のパチンコ機設置台数は、パチスロ人気の影響を受けたこともあり、前年比4%減の296万台となり、はじめて300万台を下回りました。

しかしながら、パチンコ機販売台数自体は、パチンコホールが新台入替により集客をはかる営業スタイルを加速したこともあり、過去10年で2番目となるなど、堅調な動きを見せました。

こうした市場環境のもと、当社は「ルパン三世」、「ドロンジョにおまかせ」、「月光仮面」など計8シリーズを発売し、営業努力を重ねてまいりました。

しかしながら、販売台数は242千台となり、予算を下回る結果となりました。これは、当社製品に対するパチンコホールの評価が厳しかったこと、また発売機種投入時期が競合他社の有力機種と重なったことが主な原因です。

### □来期の見通し

パチンコホールを取り巻く環境は依然厳しい状況ですが、パチンコ機に対する需要は依然堅調に推移するものと予想されます。

当社では中間期までに4シリーズ、通期では9～10シリーズを投入する予定です。来年3月に発売予定の新製品の投入時期が、販売戦略上の理由により来年4月以降にずれ込む可能性を考慮し、投入シリーズ数に幅を持たせました。

販売台数は中間期までに80千台、通期で240千～300千台を予定しています。

(百万円未満切捨表示)

	第38期	第37期
売上高	51,250	26,925
営業利益	10,592	5,925

## Pachinko New Machine

### ルパン三世 タマダス島に眠る財宝

(2005年11月発売)

ルパン三世シリーズのパチンコ機第4弾。「ルパン、史上最大の作戦。」としてルパン、不二子、銭形の3人をそれぞれ主人公とし3機種を同時発売。同一ステージ・マルチストーリーシステムを採用。

©モンキーパチンコ/TMS・NTV



### スキージャンプ・ペア

(2006年2月発売)

世界を爆笑の渦に巻き込んだ映像作品「スキージャンプ・ペア」がパチンコで登場。射幸性の低いスペックを用意し、新しいパチンコの遊び方を提案しました。

©Riichiro Mashima/IDIOTS

## パチスロ機事業

### □概況

2005年のパチスロ機設置台数は、ここ数年のパチスロ人気により、前年比3%増の193万台となり、過去最高を記録しました。

一方でパチスロ機販売台数は、昨年度より減少しました。これは、規則改正による各メーカーの許可取得の遅れと入替需要の減少が主な原因です。

こうした状況の中、当社は、初の自社開発パチスロ機「雷蔵伝」、自社新規1号機「人造人間キカイダー」など計4機種を発売し、営業努力を重ねてまいりました。

しかしながら、販売台数は26千台と予算を下回る結果となりました。これは市場における新規機の評価が低かったこと、また当社の許可取得が計画より遅延したのが主な原因です。

### □来期の見通し

パチスロ機市場の動向については、法令に基づく旧規則機の撤去が続くこともあり、入替需要は一定量見込めると考えられます。しかしながら、新規機の評価を現時点で判断するのは難しい状況です。

こうした状況の中、当社では中間期までに3機種、通期で6機種を投入する予定です。

販売台数は中間期までに35千台、通期で65千台を予定しています。

(百万円未満切捨表示)

	第38期	第37期
売上高	9,267	10,908
営業利益	3,525	1,650

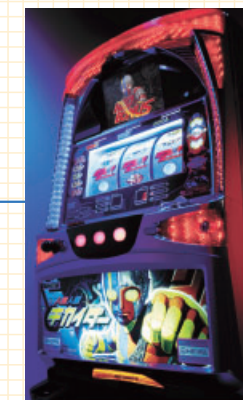
## Pachislot New Machine

### 人造人間キカイダー

(2006年2月発売)

当社の新規パチスロ1号機です。3種類のボーナスを搭載しました。「平和のために、いま、ヒーローがよみがえる。」

©石森プロ・東映



### ゴルゴ13 The Professional

(2006年3月発売)

当社と(株)オリンピアとの共同ブランドHEIWABROSのパチスロ機(10ページ参照)。新規機としては、市場から高い評価を得ました。

©さいとう・プロ/小学館



## 補給機器事業

当事業は、パチンコ機・パチスロ機を設置する島やホールコンピュータ、パチンコ玉・メダルの補給機器など、パチンコホールの周辺機器を主に取り扱っています。

補給機器市場においては、パチンコホール店舗間の競争が一段と激しい状況となる中、パチンコホールは補給機器への設備投資を抑制し、資金をパチンコ機・パチスロ機の購入にあてる傾向があります。

その結果、売上高39億円、営業損失は1億円となりました。2007年3月期については、通期の売上高51億円を予定しています。

(百万円未満切捨表示)

	第38期	第37期
売上高	3,991	692
営業利益	▲ 104	▲ 84

## その他

再保険、投資事業、携帯電話向け情報提供サービス(平和アプリDX)など、主にグループ会社によるものです。

当期における売上高は5億円、営業利益は3億円となりました。

2007年3月期については、通期の売上高10億円を予定しています。

(百万円未満切捨表示)

	第38期	第37期
売上高	583	455
営業利益	337	157

## 遊技場事業

当事業は、子会社の(株)新効が群馬県高崎市にてパチンコホールを3店舗運営しています。

同社営業地域においては、大手パチンコチェーン店の進出や既存店舗の大型化が続ぎ、店舗間の競争が一段と激化しています。

その結果、売上高124億円、営業利益は2億円となりました。

2007年3月期については、市場環境が引き続き厳しくなることが予想され、通期の売上高119億円を予定しています。

(百万円未満切捨表示)

	第38期	第37期
売上高	12,468	3,569
営業利益	259	57

## □ 来期(2006年9月期・2007年3月期)の見通し(連結)

(百万円未満切捨表示)

	2006年9月期(中間期)	2007年3月期(通期)
売上高	34,830	98,750~110,710
パチンコ機事業	14,000	60,950~72,910
パチスロ機事業	11,720	19,740
補給機器事業	2,640	5,100
遊技場事業	5,950	11,900
その他	520	1,060
営業利益	▲ 3,280	7,140~12,210
経常利益	▲ 3,030	7,810~12,880
当期(中間)純利益	▲ 3,040	4,500~7,490

## ■ 新パチンコ工場完成

当社では、群馬県伊勢崎市に16億円かけ建設していました新パチンコ工場がこのたび完成し、2006年5月より稼働を開始しました。

新パチンコ工場は、当社パチスロ工場や電子部品製造子会社である(株)アムテックスの隣接地にあり、当社生産拠点の集約により、生産・物流面での効率化を推進しました。

新工場の延床面積は、従来の工場に比べ1.7倍の10,000㎡となります。パチンコ機市場においては、タイムリーな製品供給が重要な要素となっているため、新工場の生産能力を月産10万台以上とすることで、より柔軟な製品供給を可能としています。

なお、従来の本社パチンコ工場については、物流拠点としての活用を予定しています。



## ■ 新生「HEIWABROS」登場!

当社と(株)オリンピア(持分法適用会社)の共同ブランドである「HEIWABROS」を、大きくリニューアルしました。

これは、当社のパチスロ機生産開始と、(株)オリンピアのパチンコ機生産開始により、複雑になった当社商品のラインアップを分かりやすく整理することが目的です。

当社企画・製造のパチンコ機・パチスロ機は「HEIWA」ブランドで統一する一方、当社企画・(株)オリンピア製造のパチンコ機・パチスロ機は「HEIWABROS」ブランドとし、2つのブランドをより明確にし、(株)オリンピアとの協力関係の強化をはかっていきます。

新生「HEIWABROS」の第1弾は、今年3月に発売したパチンコ機「ゴルゴ13 Strikes Again」とパチスロ機「ゴルゴ13 The Professional」です。



ゴルゴ13 Strikes Again



ゴルゴ13 The Professional

# 連結・単独財務諸表

Financial Statements

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	第38期 (2006年3月31日現在)	第37期 (2005年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			
流動資産		106,909	122,024
固定資産		125,330	117,478
有形固定資産		24,904	24,719
無形固定資産		2,199	2,291
投資その他の資産		98,226	90,468
資産合計		232,240	239,503
<b>(負債の部)</b>			
流動負債		24,678	37,508
固定負債		1,209	1,264
負債合計		25,887	38,773
<b>(少数株主持分)</b>			
少数株主持分		—	542
<b>(資本の部)</b>			
資本金		16,755	16,755
資本剰余金		16,675	16,675
利益剰余金		175,216	170,424
その他有価証券評価差額金		2	△ 917
為替換算調整勘定		△ 86	△ 538
自己株式		△ 2,210	△ 2,210
資本合計		206,352	200,188
負債、少数株主持分及び資本合計		232,240	239,503

### 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第38期 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
売上高		77,560	42,551
売上総利益		27,877	11,934
営業利益		9,501	6,342
経常利益		10,816	3,981
税金等調整前当期純利益		11,747	3,819
当期純利益		7,023	1,787

### 連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第38期 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
<b>(資本剰余金の部)</b>			
資本剰余金期首残高		16,675	16,675
資本剰余金期末残高		16,675	16,675
<b>(利益剰余金の部)</b>			
利益剰余金期首残高		170,424	167,157
利益剰余金増加高		7,023	4,850
利益剰余金減少高		2,230	1,583
利益剰余金期末残高		175,216	170,424

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第38期 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		9,048	7,881
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 13,854	1,040
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,150	△ 1,433
現金及び現金同等物に係る換算差額		368	41
現金及び現金同等物の増減額		△ 6,588	7,530
現金及び現金同等物の期首残高		57,335	49,805
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額		△ 693	—
現金及び現金同等物の期末残高		50,054	57,335

## 単独財務諸表

### 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	第38期 (2006年3月31日現在)	第37期 (2005年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			
流動資産		89,285	104,429
現金及び預金		30,287	34,761
受取手形		7,704	20,579
売掛金		8,205	1,727
有価証券		24,774	27,489
棚卸資産		8,873	10,176
繰延税金資産		1,784	3,423
その他		7,663	6,431
貸倒引当金		△ 8	△ 159
固定資産		126,819	117,453
有形固定資産		21,865	21,389
無形固定資産		37	52
投資その他の資産		104,917	96,012
資産合計		216,105	221,883
<b>(負債の部)</b>			
流動負債		21,421	32,946
支払手形		4,079	7,570
買掛金		13,166	19,437
未払金		2,036	2,884
未払法人税等		1,366	1,628
賞与引当金		455	455
その他		317	970
固定負債		951	964
負債合計		22,373	33,910
<b>(資本の部)</b>			
資本金		16,755	16,755
資本剰余金		16,675	16,675
利益剰余金		162,592	157,621
その他有価証券評価差額金		△ 145	△ 934
自己株式		△ 2,145	△ 2,145
資本合計		193,731	187,972
負債資本合計		216,105	221,883

### 損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第38期 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
売上高		61,057	37,877
売上原価		36,032	27,174
売上総利益		25,024	10,703
販売費及び一般管理費		16,596	4,868
営業利益		8,428	5,834
営業外収益		4,445	744
営業外費用		2,381	2,359
経常利益		10,492	4,220
特別利益		1,480	6
特別損失		465	148
税引前当期純利益		11,507	4,078
法人税、住民税及び事業税		2,888	1,434
法人税等調整額		1,450	111
当期純利益		7,167	2,532
前期繰越利益		145,875	144,109
中間配当額		1,431	—
当期末処分利益		151,612	146,641

### 利益処分計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第38期 株主総会承認日 2006年6月29日	第37期 株主総会承認日 2005年6月28日
当期末処分利益		151,612	146,641
利益処分量		1,853	765
配当金		1,717	715
役員賞与金		135	50
次期繰越利益		149,759	145,875

※決算期日を12月31日から3月31日に変更したため、第37期は2005年1月1日から2005年3月31日までの3ヵ月間となります。

# 会社概要・関連会社のご紹介

Corporate Data

## 会社概要

**商号** 株式会社 平和  
(英訳名: Heiwa Corporation)

**本社** 〒376-8588  
群馬県桐生市広沢町二丁目3014番地の8

**URL** <http://www.heiwanet.co.jp/>

**創業** 昭和24年

**設立** 昭和35年

**資本金** 167億5,500万円

**従業員数** 939名(連結)(平成18年3月31日現在)

**役員**

代表取締役社長	石橋保彦
代表取締役専務	堀江一義
専務取締役	町田徹
取締役	平野征宏
取締役	杉戸春雄
取締役	坂本雅夫
取締役	中村誠一
取締役	鎌田義雄
取締役相談役	中島潤
取締役(非常勤)	長谷川貴久
常勤監査役	井元敏勝
監査役	岸本政昭
監査役	頃安健司
監査役	佐藤武志

**事業内容** パチンコ機の開発・製造・販売  
パチスロ機の開発・製造・販売

**事業所** 本社・工場(桐生・伊勢崎)、六本木オフィス、北海道、東北、北関東、東京、名古屋、大阪、広島、九州 他23営業所

**取引銀行** 三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、群馬銀行

## 関連会社のご紹介

**(株)オリンピア**  
所在地/〒110-0015 東京都台東区東上野2-11-7  
TEL/03-3835-2181

**(株)アムテックス**  
所在地/〒379-2206 群馬県伊勢崎市香林町2-1818  
TEL/0270-62-7731

**(株)新効**  
所在地/〒370-0073 群馬県高崎市緑町1-1-19  
TEL/027-370-8880

**(株)平和サテライト**  
所在地/〒376-0002 群馬県桐生市境野町7-86  
TEL/0277-22-1155

**(株)平和サービス**  
所在地/〒376-0002 群馬県桐生市境野町7-86  
TEL/0277-43-7501

**(株)平和アルファ**  
所在地/〒110-0015 東京都台東区東上野2-22-9  
TEL/03-3839-0444

**(株)平和プラス**  
所在地/〒110-0015 東京都台東区東上野2-15-5  
TEL/03-3837-3245

**Heiwa Insurance Inc.**  
所在地/アメリカ ハワイ州ホノルル市

**Meteor LLC**  
所在地/アメリカ ハワイ州ホノルル市

**Heiwa Investments AG**  
所在地/スイス連邦 グランビュンデン州クール市

# 株式の状況・株主メモ

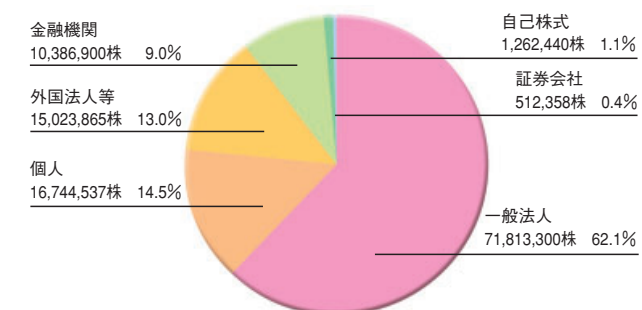
Stock Information

## 株式の状況

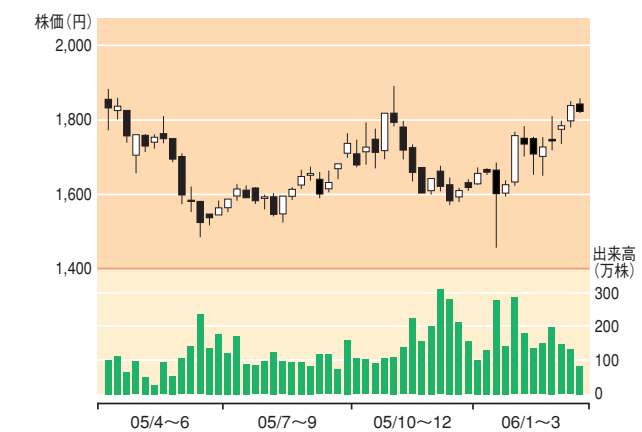
平成18年3月31日現在

会社が発行する株式の総数 ————— 228,903,400株  
発行済株式の総数 ————— 115,743,400株  
株主数 ————— 13,420名

## 株式の所有者別状況



## 株価チャート



## 株主メモ

**事業年度** 4月1日から翌年3月31日

**期末配当基準日** 3月31日

**中間配当基準日** 9月30日

**定時株主総会** 毎年6月

**株主名簿管理人** 三菱UFJ信託銀行株式会社

**同送付先・連絡先** 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711

**同取次所** 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
野村證券株式会社 全国本支店

**上場証券取引所** 東京証券取引所第1部

## 株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式関係のお手続き用紙のご請求は、三菱UFJ信託銀行にてお電話およびインターネットでも24時間受け付けしておりますのでご利用ください。

**電話** 0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)

**ウェブサイト** <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。

**株式会社 平和**  
〒376-8588 群馬県桐生市広沢町2-3014-8  
本誌の内容に関することは経営企画室 広報課にお問い合わせください。  
TEL 03-5770-8888 URL <http://www.heiwanet.co.jp/>